

「三鷹市新興感染症等対策行動計画（仮称）（素案）（令和８年４月３日まで）」 に係る市民意見への対応について

【凡例】

- ①計画に盛り込みます・・・・・・・・意見を概ね提案どおり又は趣旨としてに盛り込むもの
- ②事業実施の中で検討します・・・・計画へ盛り込まないものの、事業実施段階で判断するもの
- ③既に計画に盛り込まれています・・・・既に意見が計画に盛り込まれているもの。既に意見の趣旨が計画に反映されているもの
- ④対応は困難です・・・・・・・・趣旨の反映を含め計画に盛り込むことが困難なもの
- ⑤その他・・・・・・・・その他の意見など

パブリックコメント提出状況

人数： ３名
件数： ６件

※パブリックコメントによる市民意見については、一部抜粋又は意識して掲載しています。

No	該 当 部 分	市 民 意 見 ※	対 応 の 方 向 性	
1	第１部 総論 第１章 計画の基本的な考え方	感染症の発生動向調査（ARIサーベイランス等）に加えて、「下水疫学調査（下水サーベイランス）」の活用を準備期・初動期の取組として明記することを提案します。 下水サーベイランスは、無症状の感染者を含めた市中感染の状況を、医療機関の受診動向よりも早く（数日?1週間程度）客観的に探知できる画期的な手法です。三鷹市内の下水処理施設等と連携し、AIによる感染拡大予測モデルと組み合わせることで、初動対応のスピードを飛躍的に高めることが可能になります。	②事業実施の中で検討します	市では、下水疫学に関する専門的な研究設備等を有していないため、市として下水サーベイランスを実施することは困難ですが、各段階において迅速かつ柔軟な対応が可能となるよう、国や都が行う下水サーベイランス等の動向を注視してまいります。
2	第２部 各対策項目の考え方及び取組 第２章 情報提供・共有・リスクコミュニケーション	「高齢者なんでも相談センター」を感染症相談の地域窓口にすることを提案します。 また、以下の３つの機能強化を提案 ①感染症相談の地域一次窓口化（高齢者感染感染症相談の入口と位置づける） ②情報ハブ機能の整備（センターを地域の感染症情報ハブとして活用する） ③見守り・アウトリーチ強化（感染拡大時には孤立高齢者の安否確認を強化する）	④対応は困難です	新型インフルエンザ等の発生時においては、市民の皆様からの問い合わせ等に対応するため、窓口を一本化するなど、情報の集約が重要であると認識しています。一方で高齢者なんでも相談センターは、高齢者が自立した生活を維持できるように総合的なサポートを行う機関であり、感染対策の情報の集約拠点として位置づけることは困難です。 市としての感染症に関する相談機能の強化については、都や保健所等と連携を図りながら検討を進めてまいります。

No	該 当 部 分	市 民 意 見 ※	対 応 の 方 向 性	
3	第2部 各対策項目の考え方及び取組 第2章 情報提供・共有・リスクコミュニケーション	情報発信・相談窓口の体制整備において、「生成AIを活用した24時間対応の多言語チャットボット」の導入検討を記載することを提案します。 素案では外国人や障がい者などの情報が届きにくい方への配慮が明記されていますが、有事のコールセンターのひっ迫は避けられませんが、市公式LINE等に生成AIを活用した多言語・やさしい日本語対応のチャットボットを導入することで、市民の不安や疑問（受診目安、給付金手続きなど）に24時間365日、即座に回答できる洗練された双方向コミュニケーションが実現できます。これはフェイクニュース（インフォデミック）対策としても極めて有効です。	①計画に盛り込みます	感染対策を円滑に進めていく上で、適切な情報提供を行うとともに、双方向のコミュニケーションに基づいたリスクコミュニケーションが重要です。ご提案をいただきました生成AIを始めとしたデジタル技術の活用につきましては、DXの推進も含めより効果的な方法について積極的に検討することを計画に盛り込みます。
4	第2部 各対策項目の考え方及び取組 第3章 まん延防止	スーパーマーケットの買い物カゴの取っ手は不特定多数がにぎるので私はいつもアルコール消毒しています。手洗い設備義務化して欲しいです。また、手洗い文化の普及教育が必要だと思います。	③既に計画に盛り込まれています	新型インフルエンザ等のまん延を防止するためには、感染対策とともに、市民一人ひとりの感染対策への協力が重要であることから、本計画では、準備期から新型インフルエンザ等の対策や感染防止対策の必要性について理解促進に取り組むこととしており、ご意見いただきました趣旨についても盛り込んでいます。
5	第2部 各対策項目の考え方及び取組 第5章 保健	自宅療養者等への物品配付において、「パルスオキシメーター等」に加え、「スマートウォッチ等のウェアラブルデバイス」の活用検討を追記することを提案します。 今後の感染症有事では、保健所や市のマンパワー不足が再び課題となります。ウェアラブルデバイス（血中酸素濃度、心拍数、体温等を測定可能なもの）を希望する療養者に貸与し、市の健康管理システム（DX基盤）へデータを自動送信・連携する仕組みを構築できれば、職員の負担を激減させつつ、容体急変のサインをAIが自動検知する等の「洗練された命を守る仕組み」が実現できます。	②事業実施の中で検討します	自宅療養者の健康観察については、都の計画において都及び保健所が行い、必要に応じて市町村と連携して行うものとされています。市は都や保健所と緊密に連携しながら、ご意見をいただきましたウェアラブルデバイス等も含めデジタルツールの活用について情報収集を図りながら、必要に応じて都や保健所に提案等をしてまいります。
6	第2部 各対策項目の考え方及び取組 第6章 物資 第1部 総論 第8章 DXの推進 第2部 各対策項目の考え方及び取組 第3章 まん延防止	平時と有事の垣根をなくす「フェーズフリー」の概念を計画の基本方針に取り入れることを提案します。 平時の市のイベントや業務、学校生活の中で感染症対策物資を日常的に活用しつつ補充する「ローリングストック」の仕組みを構築すべきです。 また、平時に推進しているテレワークやオンライン教育、オンライン診療を「感染症有事のためのフェーズフリーなインフラ」と位置づけることで、社会経済への影響を最小限に抑えることができます。	①計画に盛り込みます	感染症対策物資の備蓄について、物資等の特性に応じたローリングストック方式による備蓄体制の構築について検討することを計画に盛り込みます。また、テレワークやオンライン教育の活用等については、既に計画に盛り込んでおりますが、どのフェーズにおいても社会経済活動に有効な環境の整備に向けて検討を進めます。